

十坪住宅とは

十坪住宅とは、全患者収容をめざした長島愛生園の光田健輔初代園長が、フィリピンの子供たちにヒントを得、これなら平坦な土地の少ない長島愛生園でもできるとして考案された、六畳二間の住宅です。



国民から集まった寄付金で、入所者の労働により、149棟が建設されました。住宅には、寄付者を称える命名がなされています。他の療養所には見られない建造物ですが、現存するのは5棟（梅ヶ香、第4千代田、母の家、第2兵庫、徳島路太利）だけで、これらもいつ壊れてもおかしくない状態です。

徳島路太利

徳島ロータリークラブの寄付で建築されました（1938年3月竣工）。建築当初の原型をほぼとどめています。男子寮として3～6人が居住し、昭和から平成にかかる頃まで使用されていました。

家型貯金箱



患者作業でつくられ、戦前、寄付金集めに利用されました。戦前の募金活動は強制隔離を推し進める結果となったのです。

十坪住宅「徳島路太利」 募金活動にご協力ください

ハンセンボランティア「ゆいの会」とは、ハンセン病療養所入所者との交流や、ハンセン病問題の普及啓発を行うボランティア団体です。

2015年からは隔離と差別の歴史を示す遺産として、十坪住宅の修復保存活動を行っています。

人権侵害の歴史を後世に伝える象徴的な建築物であるとともに、そのような過酷な状況の中で入所者が生きてきた証でもある十坪住宅ですが、損傷が激しく、このままでは失われてしまいます。

修復工事の費用は集まりましたが、工事が完了した後も、維持管理のための費用が必要となります。

ぜひとも、二度と同じような人権侵害が繰り返されないよう、十坪住宅を後世に残していきましょう。

【口座名】

中国銀行大元支店 普通 1667945
ハンセンボランティア「ゆいの会」
世界遺産応援募金口座

お問い合わせは

〒700-0817 岡山市北区弓之町1-17
五藤ビル4階 山本勝敏法律事務所内
山本 勝敏（ゆいの会事務局長）
電話：086-234-1711

ブログ/<http://hansenvolunteer.blog.shinobi.jp/>

とつぽじゆうたく
十坪住宅を保存しよう

ハンセン病隔離政策の歴史を
語り継ぐために



ゆいの会
ハンセンボランティア



十坪住宅「徳島路太利」の外観

ごあいさつ

会長 近 藤 剛



岡山県瀬戸内市邑久町虫明にある国立療養所長島愛生園・邑久光明園を始めとする全国13の国立療養所では、入所者の急速な高齢化（平均年齢は86歳を超えています）の進行と入所者の減少に伴い、療養所としての役割は終焉を迎えようとしています。

そうした状況の中で、ハンセン病療養所に残る歴史的建造物・史跡を保存し、後世に、我が国のハンセン病隔離政策の「負の歴史」およびハンセン病患者がその中で生き抜いてきた証（あかし）を伝えるしていくことが重要な課題となっています。

私たち市民も、戦前戦後に、官民一体となって行われた無らい県運動によって患者やその家族が被った「人生被害」に深く関わってきたという否定しがたい歴史があります。今、私たち一人ひとりには、こうした過去の大きな過ちから大切な教訓を学び、すべての人の人権が等しく尊重される社会を実現するために努力することが求められています。

ゆいの会では、こうした思いから、愛生園に残る隔離政策の象徴というべき「十坪住宅」のうち、比較的原型をとどめている「徳島路太利」の修復保存に取り組んできました。5年を掛けて、多くの皆さんの協力により得られた700万円により2020年4月より、修復工事に着手し、11月には完成します。修復工事完成後の「徳島路太利」は一般公開を予定しています。

これまでの主な歩み

① 建築士による現地調査 (2015.9.4)



② 第1回街頭署名活動 (2016.6.11)



③ 高校生らと記念撮影 (2016.8.27)



④ ボランティアによる十坪住宅案内 (2017.4.9)



⑤ 修復保存工事の様子 (2020.4.8)



修復後の活用方法

室内外を公開し、室内には当時の入所者の生活の様子を再現するとともに、長島愛生園における十坪住宅建築のための募金活動に関する書籍や写真、そして、「徳島路太利」の修復運動や修復経過をパネルで展示する予定です。